来賓挨拶

高知女子大学長　木　原　正　雄

木原でございます。本日と明日の２日間にわたりまして高知女子大学看護学会が開催され、社会的に活躍されております卒業生の方々が日頃研究されておりました成果が発表されますことは、我が国における看護教育と看護学の発展にとりましても、又、高知女子大学にとりましても大きな意義を持つものであり、非常にうれしく存じております。

昭和５１年に看護学会が結成されまして以来、すでに１０年近くたっておりますが、その間、困難な条件のもとで、看護教育と新しい学問分野であります看護学の体系化のために尽くされてきました努力は並々ならぬものがあったと思っております。医療は看護なくして成り立たぬことは言うまでもありませんが、看護の重要性にもかかわらず、我が国におきましてはまだまだ正当な位置づけと評価がなされているとは言えないと思います。最近科学技術の進歩のもとで医療の機械化が急速に進んでおりますが、今日の経済体制のもとでは医療もまた、１つのビジネスとしてとらえ、医療の機械化は利潤獲得を目的とした民間企業中心のビジネスの対象になってきております。医療の機械化はあくまで人間の生命尊重の立場からなされるべきであり、ビジネスの単なる対象であってはならないことは言うまでもございません。このような新しい傾向の中で、人間尊重の立場から看護はどうあるべきかを改めて考える必要があるのではないかと思います。このためには何よりもまず、看護についての理論的、基礎的研究をよりいっそう深めることが必要ではないかと存じます。このためにも、今後とも我が国における看護教育と看護学の研究において、高知女子大学看護学会がより大きな成果をあげられ、看護学の体系化と、科学としての看護学の確立のため中心的な役割を演じられるとともに、看護学会が学術学会として名実ともに正当な地位を与えられるよう、より一層のご発展を祈るものでございます。簡単ではございますがこれを以てごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。